

## 誰のための世界水フォーラムか？ ～ 密室で話し合われた水民営化の利権～

2003年4月 JACSES 田辺有輝

3月16日から23日、京都、滋賀、大阪で、第三回世界水フォーラムが開催された。世界の水問題の解決に向けて「ビジョンからアクションへ」というスローガンの下、閣僚宣言や声明文、行動計画書などの文書がまとめられたが、それらの作成プロセスは非常に不透明であった。

### 第三回水フォーラムの背景

世界水フォーラムは1997年に第一回目がモロッコのマラケシュで開かれ、第二回目が2000年にオランダのハーグで開かれた。第二回世界水フォーラムでは、水問題を解決させるための今後の方向性を示す「世界水ビジョン(\*1)」が発表された。しかし、世界各地の292のNGOが署名した「行動のための市民団体世界水ビジョン」では、このビジョンは「草の根の水管理方法を破壊し、水管理を私企業手渡すものである」とし、その作成プロセスが非民主的であるとして、「ビジョンからアクションへ」という第三回世界水フォーラムのコンセプトや開催プロセス自体を批判している(\*2)。

### 水の民営化を推進する閣僚宣言

各分科会の中で、自らの市場を拡大しようとするスエズ社やビベンディ社などのグローバル水企業は、水道サービスの民営化の効率性をさかんに宣伝し、世界銀行やアジア開発銀行などの国際金融機関は、水分野における民間資金の拡大を掲げていた。結果的に第三回世界水フォーラムの成果のひとつである閣僚宣言は以下のような内容になっている(\*3)。

- ・ 資金調達は貧困層に配慮しつつ、コストカバリー(使用者による費用の負担)や汚染者負担を原則とするべきである
- ・ 水施設への資金調達に関する世界パネル(通称:カムドシュパネル)の報告に留意する
- ・ 民間部門の参加を含む資金調達手段を模索し、官民パートナーシップという新しい手法を開発する。

昨年の国連経済社会権規約委員会において「水は基本的人権である」ということが確認され(\*4)、閣僚会議においても、閣僚宣言にこれを明記すべきだという閣僚の発表があったにもかかわらず無視された。一方で、私的委員会に過ぎない「水施設への資金調達に関する世界パネル」の報告書が閣僚宣言に引用されている。水施設への資金調達に関する世界パネルは、国際金融機関やグローバル水企業などのトップ20人によって2001年に設立され、第三回世界水フォーラムの直前に「Financing Water For All」というレポート(通称:カムドルシュレポート)を発表した。このレポートには以下のような内容が明記されている(\*5)。

- ・ 2025年までに毎年1800億ドル以上の資金が必要だとされ、現在の投資額の約2倍の資金が必要となる
- ・ 資金を調達するためには持続可能なコストカバリー（使用者による費用の負担）を行う必要がある。貧困層に配慮するために、階層的な料金設定が必要である
- ・ 各国政府、自治体、国際機関は民間資金を呼び込むために制度を改革し、民間投資のリスクを軽減する必要がある

カムドゥシュパネルの掲げた1800億ドルという莫大な金額が、貧困層の水アクセスの向上にとって適切な額かどうかは疑問の余地が残る。また、コストカバリーは水道設営や運営、メンテナンスなど、水道供給にかかるコストを利用者で負担していくというコンセプトであり、水道サービスに民間企業が参入する際に、経営基盤を整備するために不可欠とされている。しかし、水の民営化・商品化については、貧困層への社会的影響が大きいとして、数年前から多くのNGOが懸念を表明している。

### 水の民営化・商品化の問題

グローバル水企業や国際金融機関の下で、世界各地で導入されている水道サービスの民営化により、フィリピン、インドネシア、スリランカ、タイなどの発展途上国では、水道料金の高騰、水質の悪化、サービスの悪化などが起きている(\*6)。

- ・ スエズの子会社であるマニラッド社は、「利益が出ない」としてマニラ西地区の水道委託契約を一方向的に破棄した。水道料金は民営化前の二倍になり、最貧困層への配慮も十分でなかったと指摘されている。
- ・ インドネシアでは、世界銀行の水道関連融資の後、スエズ社とテムズウォーター社による民営化がスタートした。水道料金は値上げされたが、外貨建て債権や水道料金収集などのリスクを政府が担保するようなシステムになっている。
- ・ スリランカではアジア開発銀行の支援を受けて水を取引可能な経済財とし、「水の利用権」制度を導入しようとしている。しかし、貧しい農民への影響が大きいとして懸念が高まっている。
- ・ タイでは、99年のアジア開発銀行による農業セクターローンの後、灌漑用水の料金化や上下水道の民営化が進行している。そして、民間企業に対し、税金による政府の手厚い保証が導入されている。

現在、安全な水のアクセスができない12億人のほとんどは、一日一ドル未満で生活する絶対貧困層であり、例え民間資金を活用して、水分野に関する資金量を倍増させたとしても、貧困層の経済的負担を増大することでは、安全の水へのアクセスを向上することにはならないだろう。閣僚宣言では、貧困層への配慮を行うということが明記されているが、世界各地で行われている水の民営化・商品化の事例では、貧困層に大きな負担を強いていることは明らかである。

## 世界水フォーラムの閉鎖的なプロセス

世界水フォーラムは世界水会議という民間団体が主催する国際会議で、閣僚会議の部分だけホスト国政府が招待するという形を採っている。つまり、まったく別のプロセスで行われた2つの会議が、あたかもひとつの会議を行ったかのように見せているのだ。民間団体の主催する民間国際会議に、閣僚宣言という「お墨付き」を与えるような印象を与えていることに大きな問題がある。世界水会議はグローバル水企業の強力な後押しにより設立された民間団体であり、世界各地の 292 の NGO が署名した「行動のための市民団体世界水ビジョン」では、世界水フォーラムの根本的なビジョンやプロセスが疑問視されている(\*2)。第三回世界水フォーラムは、351 の分科会の報告をまとめた「世界水フォーラム声明文(\*7)」と、世界水会議がまとめた「世界水行動報告書(\*8)」、「閣僚宣言」などが主な成果として掲げられているが、これらの作成においては、以下のように非民主的で閉鎖的なプロセスが採られていた。

- ・ 「官民パートナーシップを進めるべきかどうか？」を話し合う分科会では、民営化を推進する世界水会議や企業の意見と、市民団体による民営化反対の意見に分かれ、ひとつの宣言を出すことができなかった(\*9)。しかし、分科会の結果を元に作られたはずの「世界水フォーラム声明文」の提言部分では、一方的に官民の連携を推進する内容となっている。
- ・ 世界水会議の下部組織である水行動ユニットが 6 人でまとめた「世界水行動報告書」が、第三回世界水フォーラム開催日の16日に一方的に発表され、議論もせずに第三回世界水フォーラムの成果のひとつとして掲げられた。
- ・ 閣僚宣言のドラフトは、市民に全く公開されなかった。最後の二日間に行われた閣僚級会議でも、事前に日本政府が用意した宣言案を採択して終了するという形式だけの閣僚会議だった(\*10)。

## 誰のための世界水フォーラムか？

このように、世界水フォーラムは、安全な水へのアクセスができずに苦しむ貧困層を救うためのものではなく、水を独占して儲けようとするグローバル水企業の活動を後押しするためのものとなっている。このような会議に対し、NGO だけでなく、政府からも疑問の声が上がっている。第二回世界水フォーラムを主催したオランダ政府は、今回の世界水フォーラムが貧困層の水アクセスを解決する実質的な目標を決めることができなかったとして、第四回世界水フォーラムを行うことに疑問を呈している。世界水フォーラムは開催目的やプロセスを根本的に見直す必要がある。

水の民営化に取り組んでいる NGO が今後注目している会議として、6月にフランスのエピアンで開催される G8 エピアンサミットと9月にメキシコのカンクンで開催される WTO 閣僚会議がある。G8 エピアンサミットでは、水分野に関する民間資金を拡大するためのイニシアティブがひとつの焦点となり、WTO 閣僚会議ではサービス貿易協定に水道サービスを含めるかどうか論点となっている。安全な水へのアクセスができずに苦しむ貧困層をどのように救っていくかという議論は、世界水フォーラムや WTO といった経済優先のバイアスのかかった密室の会議ではなく、今後は、例えば国

連のような、ある程度開かれた場を中心に、ミレニアム開発目標やヨハネスブルク実施計画における水分野の目標達成手法を議論する必要があるだろう。

**出典:**

(\*1)世界水会議「世界水ビジョン」

<http://www.worldwatercouncil.org/Vision/cce1f838f03d073dc125688c0063870f.shtml>

(\*2)カナダ人評議会「行動のための市民団体世界水ビジョン」

[http://www.blueplanetproject.net/cms\\_publications/VISION\\_27mar\\_jap.pdf](http://www.blueplanetproject.net/cms_publications/VISION_27mar_jap.pdf)

(\*3)第三回世界水フォーラム閣僚宣言

[http://www.world.water-forum3.com/jp/mc/md\\_info.html](http://www.world.water-forum3.com/jp/mc/md_info.html)

(\*4)国連経済社会権委員会

<http://www.unog.ch/news2/documents/newsen/esc0232e.htm>

(\*5)World Panel on Financing Water Infrastructure “Financing Water For All”

<http://www.gwpforum.org/gwp/library/FinPanRep.MainRep.pdf>

(\*6)JACSES「水の民営化の真実」

<http://www.jacses.org/sdap/water/index.html>

(\*7)第三回世界水フォーラム声明文

<http://www.world.water-forum3.com/2003/jpn/secretariat/0322-3.html>

(\*8)世界水会議「世界水行動報告書」

[http://www.worldwatercouncil.org/press\\_en/report.shtml](http://www.worldwatercouncil.org/press_en/report.shtml)

(\*9)Water is Life Coalition

[http://www.blueplanetproject.net/cms\\_publications/PRESS\\_RELEASEMarch\\_20.pdf](http://www.blueplanetproject.net/cms_publications/PRESS_RELEASEMarch_20.pdf)

(\*10)第三回世界水フォーラム閣僚級国際会議

<http://ap.world.water-forum3.com/themeVwf/jp/themeShow.do?id=14>